

長野市総合計画審議会作業部会 会議概要（報告）

会議名	市民フォーラム21 第8回 教育・文化部会	
日時	平成23年4月25日（水）午後3時から午後4時45分	
会場	長野市役所第二庁舎10階 会議室18	
出席者	作業部会員 （敬称略）	石塚弘登、藤沢謙一郎、山岸恵子、内山了治、宮澤俊弘、宮澤 博
	関係課員	庶務課、第一庁舎・長野市民会館建設事務局、秘書課、障害福祉課、保育家庭支援課、観光課、教育委員会総務課、学校教育課、保健給食課、生涯学習課、文化財課、体育課、企画課（事務局）

I 会議次第

- 1 開会
- 2 部会長あいさつ
- 3 自己紹介
- 4 市民フォーラム21 第7回 教育・文化部会 会議概要について **【別添資料】**
- 5 第四次長野市総合計画 後期基本計画 施策の目標及び主な取組について
【教育・文化分野】 **【資料1】【資料2】**
- 6 第四次長野市総合計画 後期基本計画に係る指標について
【教育・文化分野】 **【資料3】**
- 7 報告事項 **【資料4】**
 - (1) 第四次長野市総合計画 後期基本計画 目標等について
 - (2) 市民意見の聴取結果等について
 - (3) 国勢調査結果の速報について
- 8 その他
- 9 閉会

II 会議の概要（主な決定事項、質疑等）

- 4 市民フォーラム21 第7回 教育・文化部会 会議概要について **【別添資料】**

第7回会議において質問があった、善光寺の世界遺産登録に向けた現在の状況について、文化財課から次のとおり説明した。

⇒ 文化庁では、世界文化遺産の暫定一覧表（リスト）に掲載できる遺産について、平成18年度に公募を行い、長野市は「善光寺～古代から続く浄土信仰の霊地～」の提案書を提出した。この提案書は、暫定リストからはずれ、継続審議とされた。

平成19年度にも公募があり、長野市は「善光寺と門前町」の提案書を提出した。これは、既に法隆寺や日光の社寺等が世界文化遺産に登録されており、善光寺という寺社単独では、難しい状況であったことによるもの。

平成19年度の提案書は審議選考の結果、今後の取組み手順においてカテゴリー「I b（提案地方公共団体を中心に、当面、主題に関する学術的な調査研究を十分に行い、主題及びこれに基づく資産構成に関して一定の方向性が見えた段階で、関係地方公共団体により作業を進めるべきもの。）」とされた。

文化庁の助言として、提案そのものの内容では、世界遺産の準備を進めることはできるかどうか

かも含めて見直しが必要だが、提案の根底に流れている部分は、ある程度、世界遺産に出せる価値があると判断した。世界遺産の登録に向けては、門前町が完全に残っていることが前提条件であり、「善光寺と門前町」が「近世の社寺と門前町」の代表例、典型例として唯一のものと言えることが必要などの指摘を受けた。

暫定リスト入りのためには、これら指摘された課題をクリアすることが必要である。

長野市はこの指導を受け、世界文化遺産登録に向け、コアゾーンとなる国指定、選定の文化財を中心に、重要伝統的建造物群保存地区の選定を進めるなど、面的な文化財の保全措置を講じることとした。また、これまでに関係各位の理解をいただけるよう説明会を開催するなど、平成24年度の暫定リスト掲載を目指しているところである。

5 第四次長野市総合計画 後期基本計画 施策の目標及び主な取組について

【教育・文化分野】

【資料1】【資料2】

- ① 施策の目標及び主な取組について、長野市（案）が作成された経緯を教えてください。
⇒ 作業部会員の皆さんからいただいた意見を担当課と事務局で検討の上、庁内の専門部会で検討し、長野市（案）としてまとめたのである。
- ② 長野市の観光や文化などについては、魅力を育てて発信していくことが大事である。それがすぐに施設のようなものになるのは難しいことは理解している。文化として、育てていく環境を形成していくことが大事である。文化を育てるプロセスにおいては、研究する段階も必要である。そういう意味では、作業部会員の意見を反映することが難しいことについて、長野市（案）で「検討中である。」「原案のとおりとしたい。」などと示されたことについては理解するが、作業部会員の意見の根底にあるものを長野市として受け止め、とどめておいて欲しいと思う。
- ③ 総合計画であっても、具体的な表現が入っていることも必要ではないかと考えている。総合計画は長野市の最上位計画であるのだから、前期で達成できなかったことについては、後期基本計画の期間で積極的に取り組んで欲しい。長野市民会館の建設地がようやく決まったが、当初候補であった権堂地区では再開発に大きな希望を持っている。市長は権堂に文化交流施設を作りたいと発表している。長野市としては、権堂地区の再開発に参加していかなければならないのだから、その地区にふさわしい、ある程度の案を示していかなければならないはず。例えば、文化芸術拠点となるものとして、図書館の分館など具体的なものを書いたほうが、まちづくりが前進するのではないか。そういう意味では、市の最高方針である総合計画に具体的な表現を含めて欲しい。実現は難しいかもしれないが、ワークショップでもたくさんの具体的な意見が出されている。常日頃から、市職員には考えて欲しいと思う。
⇒ 文化芸術振興計画の中でも、特定の施設の名称で表現はせず、幅広い意味合いで捉えることができるよう「拠点」という言い方で表現している。文化芸術の振興は、建物一つだけで推進していけるものではなく、拠点を特定することで文化芸術の振興の範囲を狭めてはいけなとと考えている。
⇒ これまで様々な文化芸術拠点の整備を市長へ陳情してきた経緯がある。
具体的な拠点が総合計画に記載されることが、活動をしてきた者としての思い、希望であることを理解して欲しい。
- ④ デジタルアーカイブ化は、知識と資料は揃うのだが、あくまで情報の提供、提示で終わってしまい、文化芸術の世界がデジタルの世界にとどまることは寂しい限り。文化芸術はアナログの世界で、五感で感じてもらうことが大事である。長野市民は、アトリエや創造館など、安心して発表できる場、肌で感じる場を求めている。

6 第四次長野市総合計画 後期基本計画に係る指標について

【教育・文化分野】

【資料3】

① No.13の指標の定義に「長野市民会館」が含まれている。現在、使用を中止しているが、必要なのか。

⇒ 後期基本計画は平成24年度からの5か年計画のため、新長野市民会館を想定しており、現状値と目標値については、新・旧長野市民会館の数値をもって比較してはどうかと考えている。

7 報告事項

【資料4】

(1) 第四次長野市総合計画 後期基本計画 目標等について

(2) 市民意見の聴取結果等について

(3) 国勢調査結果の速報について

資料のとおり説明した。

8 その他

① 「善光寺と門前町」の世界遺産登録について、今後、登録に向けた市としての考えはあるのか確認したい。登録までの道のりにおいて、どのような位置にあるのか。

⇒ 市では、平成20年に「I b」の評価を受けた際に、引き続き世界遺産登録に向けた作業を継続することとした。

登録に向けては、善光寺と門前町を重要伝統的建築物保存群として、都市計画決定することが必要である。

平成22年3月には、善光寺周辺伝統的建造物群保存予定地区調査報告書「善光寺とその門前町」がまとまり、その結果をもとに、さらに登録に向け作業を進めている。調査は平成16年から5年を要し、時間がかかっていることも事実である。

⇒ 善光寺の世界遺産登録については、平成19年の申請をベースとして、「善光寺と門前町」で登録を目指していることから、資料2の15ページ、主な取組③の「善光寺」の表記について、「善光寺と門前町」に改めることとする。